

## 推薦入試の極意

神戸大学 国際人間科学部 グローバル文化学科

伊禮 輝一郎

皆さん、こんにちは。この度、公募推薦で神戸大学国際人間科学部グローバル文化学科に合格しました、伊禮輝一郎です。これから、推薦入試と受験について述べようと思います。

まず始めに、少し皆さんに質問をします。

- 1.あなたには積極性がありますか？
- 2.あなたは提出物の期限を守ることができますか？
- 3.あなたは推薦入試を受けると決めたら、一般入試の勉強と平行して行うことができますか？

この3つの質問に一つでも NO という答えがあれば、少し厳しいことをいうかもしれませんが、推薦入試や AO 入試の受験をお勧めしません。それは、僕がこの公募推薦の受験を通して身をもって学んだからです。

次に、僕が公募推薦を受験することになった経緯について述べようと思います。僕は、高校二年次に、県費でアメリカのミシガン州に10ヶ月間交換留学をしていました。そのため、復学後は一つ下の学年と高校生活を共にすることになりました。復学するまで夏休みを含めて約二ヶ月時間があつたので、その間、大学についてたくさん調べました。留学後に、将来の夢は「英語教師」と決めていましたが、学部までは決めておらず、大学探しはとても大変でした。しかし、先生方に相談したり先輩方と話をしたりする中で、やりたい学問が明確になり、神戸大学を志望することにしました。僕は、中学の頃から学級委員長を務め、そこで培ったリーダーシップと留学で得た積極性を武器にしたいと考え、復学後の高校2年生の夏に公募推薦という入試制度を利用しようと決断しました。

僕が皆さんにこの合格体験記で一番伝えたいことは、推薦入試や AO 入試を「受験機会が増えるから」という理由で選んではいけないということです。上記の質問にもあるように、まずこれらの入試には積極性が必要です。僕は塾に通ってなかったので、志望理由書や面接対策は学校の先生にお願いしていました。その際にも勿論自分から行動しないとはいけません。次に、提出物の期限についてです。僕自身、宿題や提出物はギリギリの提出ではあっても遅れたことはありませんでした。しかし、募集要項に書かれている期限を見誤り、出願期限内に必要な書類が確実に届かないということが分かり、本当に落ち込みました。書類が遅れたとは思いますが、志願人数が少ないためか運良く書類審査に受かり、面接試験へと進むことができました。

最後に、一般入試との勉強の平行が推薦入試や AO 入試には鍵となってきます。推薦入試は「落ちるもの」として一般入試の勉強をしなければなりません。模試の結果を周りの友人と比べて焦ることもありましたが、一般の成績が悪くなかったため、心に余裕を持って推薦入試を受験することができました。

ここからは、僕が伝えたことを踏まえた上で、主に推薦入試や AO 入試といった入試制度を利用しようとしている人たちに向けて、対策の仕方について少しアドバイスをしようと思います。僕は、公募推薦の受験では、志望理由書と面接、センター試験が課せられていたの

でその3点について書いていきます。

### 志望理由書について

志望理由書は、書けば書くほど分からなくなり、自分の文章力の無さに落ち込み、本当にやりたいことは何か、と悩むことになると思います。夏から先生に対策をお願いしたのですが、あまりに酷すぎて先生に会うことが辛い時もありました。志望理由書を書くにあたっては、自分がなぜその学問をやりたいのか、なぜその大学でなければならないのか、将来の展望はどう描いているのか、など自問自答しながら進めていかなければなりません。そのため、やりたい学問についての本はもちろんのこと、志望大学について調べておく事が大事です。推薦入試を受けると決めた次の日から、読書と大学研究をすることを強くお勧めします。

### 面接について

僕が受けた推薦入試では今年から面接試験が導入され、全くデータがなく対策にとっても困りました。対策は、志望理由書が完成した後の11月から始めましたが、全体的に遅いと感じました。夏休みで志望理由書を書き上げるつもりで取り組むと、スムーズに面接対策に移行できると思います。複数の先生方、担任の先生に対策をお願いしましたが、そこで感じたのは、少なくとも2人の先生には面接をみてもらった方がいいです。3人の先生方の面接指導では、指摘されるポイントも異なり、様々な質問に触れることができました。そのため、多くの面接練習のおかげで得た対応力で乗り切ることができました。

### センター試験対策について

ようやく、推薦入試を利用する人以外にもアドバイスできますね(笑)センター試験に関しては、得意科目と苦手科目の調整が大事だと思います。同じ2割の得点をあげるといっても、得意な科目を8割から満点にするよりも、苦手な科目を5割から7割にあげた方が合計得点で安定するようになります。実際、直前の一週間前まで50点満点中の24点程度だった物理基礎を、たくさん演習したおかげで本番では48点まで上げることが出来たので、苦手科目の対策は大事だと実感しました。また、社会の対策は本当に直前までやるべきだと思います。世界史に関しては、前日まで学校の講座をすべて受け、本番では自己ベストを出すことが出来ました。社会は直前まで本当に伸びるので、やり続けることが大事です。国語、数学、英語に関しては、基礎を積み上げていく科目なので、高校1年生や2年生のうちに基礎を完成させることが理想です。実際、基礎を怠っていた自分は、高校3年生にあがって受験勉強を始める以前に基礎学力の無さに落ち込み、思うように計画が進みませんでした。この合格体験記を読んでいる後輩たちは、基礎を大事に勉強してほしいと思います。

ここで少し、進路指導室の使い方について述べようと思います。進路指導室と聞くと、「模試や講座の申し込みをするだけの場所」と思い浮かべる人が多数だと思います。そうでもあります。しかし、僕は特に用事がなくても進路指導室へ行き、事務の方々や進路の先生方とおしゃべりをして息抜きをしたり、勉強の進捗について相談したりしていました。時には、「勉強してこい」といわれることもありましたが(笑)、殆ど毎日行っていたからこそモチベーションを保つことができ、沢山の情報を得ることができました。よく見てみると、大学の過去問だけではなく、大学の選び方の本や面接対策の本、様々な受験データが載っている本など沢山の種類の本があります。高校1、2年生の皆さんも進路指導室をぜひ有効活用して、

現役合格を勝ち取ってください。(進路事務の方に名前を覚えてもらおうと現役合格するというジンクスもあるらしいですよ。笑)

### この合格体験記を締めくくる前に

「募集要項はちゃんと読んどけ！！」

これだけ覚えてもらえれば嬉しいです。先述した通り、出願書類が間に合わないことも経験し、さらにこれを書いた後の入学手続きでも、実際に大学に行かなければならず、楽しみにしていた台湾旅行も消えたので、念を押して伝えたいと思っています。

最後に、今まで支えてくれた周りの方には感謝しています。初めての高3担任で大変だったのに優しく後押ししてくれた枝里先生やその他多くの先生方、そして支えてくれた家族や友達への感謝を忘れず、大学でも精進していきます。ありがとうございました。これを読んでいる受験生(にこれからなる人も)が現役合格できますように。